



突撃!

Vol.56 2014.1

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.54 藤元総合病院 医療安全管理室 医療安全管理者 米丸順子 様



【病院外観】

■病院概要

昭和 17 年 5 月：藤元医院として開業

昭和 26 年 6 月：藤元病院開設

昭和 35 年 3 月：藤元早鈴病院に名称変更

平成 25 年 4 月：藤元早鈴病院を藤元総合病院に名称変更

藤元メディカルシステムの基幹病院である藤元総合病院は、先端医療機器を数多く有する九州を代表する民間病院の一つである。宮崎県都城地区および鹿児島県曽於地区の地域医療の中核を担っている。

病床数：333 床（一般 276 床、回復期リハ 50 床、感染症 4 床、新生児特定集中治療室 3 床）

■理念・基本方針

グループ経営理念

地球上のすべての生命を尊重し、親愛と思いやりをもって、人類、社会の進歩発展に貢献すること。

1. 組織体制について

—医療安全のための組織体制についてお聞かせ下さい。

当院の組織体制は、病院長直下に医療安全管理室があり、医療安全管理室の下に医療安全管理委員会、医療機器委員会、感染症委員会、医薬品委員会の 4 つがあります。

—米丸様の主な業務内容をお聞かせください。

私は医療安全管理室に所属する医療安全管理者で、医療事故の全般に関わっています。当院では感染管理や医薬品管理はそれぞれの委員会が行っている状況なので具体的には主に以下のような業務に従事しています。

- ・ 医療事故、インシデント・アクシデントの情報収集、調査、分析に関すること
- ・ 医療事故防止策の立案及び周知に関すること
- ・ 医療事故防止に係る教育・研修・啓発の立案に関すること
- ・ 医療事故防止対策マニュアル作成に関わる事
- ・ 現場のインシデントカンファレンスに参加し防止策を検討すること

2. 転倒・転落事例の収集と対策について

—転倒・転落事例の収集方法をお聞かせ下さい。

転倒・転落が発生した場合、当事者が SafeMaster の「インシデント管理システム」に入力します。このシステムを導入してからは、レポートの作成時間が短縮でき、統計、分析にも役に立っています。

また、電子カルテ上の「転倒・転落防止シート」に基づき、危険度をチェックし、転倒転落が起これば、マニュアル化されたフローにしたがって時間ごとに対象の患者さんを観察しています。

入院時は、全ての患者さんに対して危険度のアセスメントを行い、危険度に応じた対策を採っています。

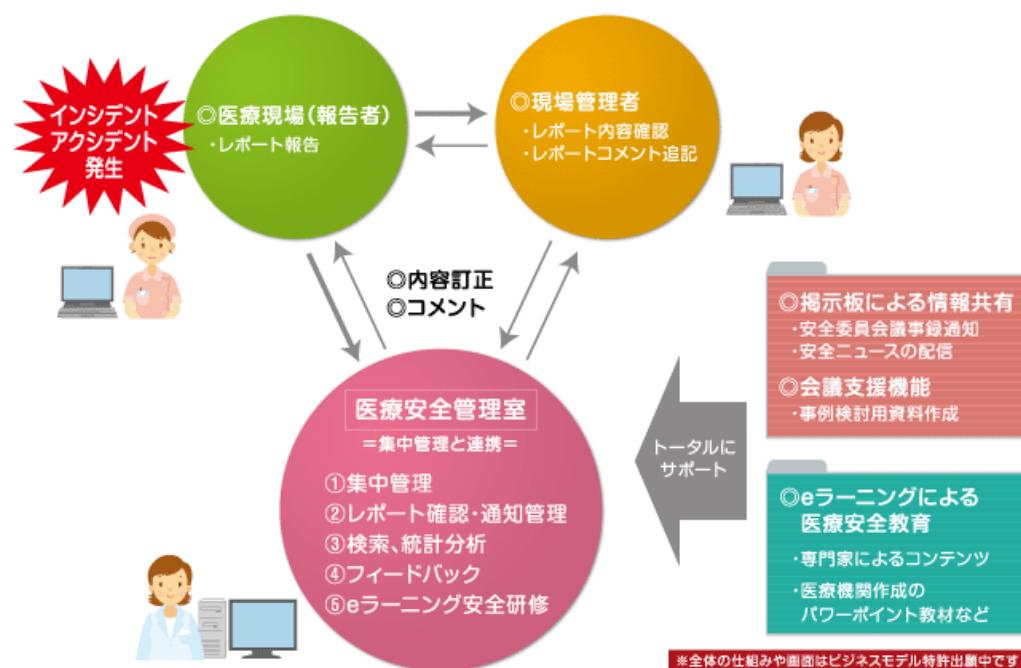
課題としては、入院時とは状態が異なった場合に、再度アセスメントを行う事がなかなか難しい所です。

—近年の転倒・転落事例の発生件数はどのように推移していますか？

統計を取り始めた平成 20 年度からの 5 年間で見ると、平成 22 年度が報告数、発生率とも最も多かったんですが、平成 23 年度、平成 24 年度はほぼ同一件数、発生率で推移しています。

高齢患者さんの割合が増えていく中で横ばいなので、様々な対策が少しは功を奏しているかなと評価しています。

【SafeMaster の運用イメージ】



3. 医療安全に関する研修および人的対策について

—医療安全に関連して、過去どのような研修を実施されましたか？

年間 2 回の全体研修では、「医薬品関連」のテーマで研修を行う事が多いですね。

次に多いのが「転倒・転落」で、これは全体研修だけではなく新人研修のテーマにもなっています。

インシデントが一番多いのが、「医薬品関連」、次が「転倒・転落」なので必然的にこの 2 つがテーマになる事が多いです。

—グループ内（藤元メディカルシステム）の病院様と医療安全に関する連携はされていますか？

グループ内には当院を含めて 4 病院があるんですが残念ながら、特にこれといった連携は行っていません。

将来的にはぜひ何かやってみたいですね。

地域の病院間では、年に一度「医療安全に関する合同研修会」を行っています。

4. 離床センサーについて

—導入機種はどのようなポイントで選定されましたか？

当院ではテクノスジャパンの離床センサーを 30 台程度導入しています。

選定ポイントは、「使いやすさ」と「価格」の 2 つが大きいと思います。

中でも最近導入した「コードレスタイプ」は、コードがないので現場の評価がすごく良いですね。

—それぞれのタイプのセンサーはどのように使い分けられていますか？

使い分けができるほど台数にゆとりがないので、必要な患者さんが居れば空いている機種を工夫して使用しているのが実情です。一番活躍しているのは、床敷きタイプの「コールマット」とベッド柵用の「タッチコール」ですね！

5. 最後に、一言お願いいたします！

私は医療安全管理者になってからまだ日が浅いですが、医療安全自体が頭打ちの状態になってきている中で、「医療安全とは何か？」を常に考えながら、医薬品や感染症などの関連部署と一緒に活動できる部署を目指したいと思います。その結果、患者さんに安全な医療が提供できればと考えます。